

# 新庄市議会 行政視察報告書

会派 市民・公明クラブ

## 【全体的事項】

1. 視察日程 平成25年11月18日（月）～19日（火）
2. 調査事項（視察先）
  - （1）ちとせ健康・医療相談ダイヤル24について（北海道 千歳市）
  - （2）議会報告会の進め方について（北海道 栗山町）
3. 視察参加議員  
下山准一 平向岩雄 小野周一 高橋富美子 佐藤卓也

## 【具体的事項】

### 調査事項（1）

**電話健康医療サービスをどのような経緯で導入したのか視察を行なった。**

北海道 千歳市

人口：94,172人 面積：594.95km<sup>2</sup>

#### （視察事項）

- 電話健康医療相談サービス「ハロー健康相談24」を導入された目的と経緯
- 電話健康医療相談サービス導入のメリット
- 相談内容の分類比率
- 診療科目別利用状況
- 年齢別・受付時間別利用状況
- サービスを導入したことにより救急搬送者のうち軽症者の搬送割合の推移
- その他

■視察日時 平成25年11月18日（月）  
午後 1時15分 ～ 3時00分

#### ■所 感

千歳市の救急医療体制は、昭和49年より在宅当番医による24時間体制を開始しましたが、平成20年度に当番医の高齢化や大学からの派遣医師の不足など

から当番医の埋まらない空白日が発生した。救急医療体制を存続されるためには、当番医の疲労を抑制し、医療提供側の負担緩和が必要なために平成21年4月から診療時間を深夜0時まで短縮した。体制悪化の要因としては、医師不足や地域での偏在（医師は北海道・東北に少ない）、診療科の偏在（特に産婦人科・小児科、ハイリスクローリターンでなり手が不足）、労働環境では業務がハードであり、また医療過誤に対する社会の目が厳しく病院を辞めていくなど多岐に及びます。その対策の一つとして「ちとせ健康医療相談ダイヤル24」を開設しました。事業の目的としては、市民の救急医療に関する不済を解消するため、相談電話を開設し、気になる身体の症状に対する相談や応急措置のアドバイスなどのサービス提供を行なうこととしています。

新庄市の救急医療は、二つの救急医療機関が担っております。少しでも医師の過重負担を少なくするため、夜間休日診療所で初期の救急患者を診察しておりますが診療時間が遅くても20時までとなっており、深夜に相談できず「コンビニ診療」が増える傾向にあります。また核家族化が進んでおり、育児に関する相談をする人がいないなど問題を抱えています。その対策として「ちとせ健康・医療相談ダイヤル24」の効果があると思われます。市民の多様なニーズに対応するため看護師・保健師・医師が24時間・年中無休で相談に応じ、分かりやすくアドバイスし、通話料や相談料も無料で利用できるシステムですので気軽に利用できると感じます。また年々医療費も増大しており、ちょっとしたことでも電話で相談することで少しでも医療費抑制に努めることが出来るのではないのでしょうか。このサービスを新庄市のみならず最上広域全体で取り組む必要があると感じますがどの位の費用対効果があるも同時に考えることが必要です。



## 調査事項（２）

栗山町議会基本条例の誕生と展開について視察を行なった。

北海道 栗山町

人口：13,020人 面積：203.84km<sup>2</sup>

### （視察事項）

議会報告会の進め方について

- 視察日時 平成25年11月19日（火）  
午後10時00分 ～ 11時40分

### ■所 感

新庄市議会は議会活動の状況を地域に出向き市民に直接報告・説明し市政に関する情報の提供に努め、市民との意見交換を通して、議会における政策立案や政策提案の充実を図るため、H24年5月より議会報告会を始めました。

現在、三回の議会報告会を実施しましたがその中の課題として参加人数の少なさが挙げられます。栗山町では初回から12会場で参加者が370名と多く、議会への関心が高く感じられます。やはり議会に興味を持ってもらうためのきっかけとして、最初は自治会や町内会長に協力をいただく必要があると感じました。また会場場所については学区ごとの大きい会場ではなく、各公民館と言った小さな単位で数多く開催し、待っているだけではなく、自分たち自ら積極的に沢山の地域に出向くことも必要です。

問題解決のための特効薬や近道はなく、日頃からより一層の議員間での話し合いや調査研究を積み重ね、目指す政策サイクルの姿に一步ずつ近づけていきたいと感じます。

